

伊勢の今を伝える

ISEBITO NEWS

春の号

第16号

いせびとニュース

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげ参り推進委員会
●発行部数 10万部
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL (0596) 23・5166 FAX (0596) 23・5241
E-mail otayori@isebito.com

16



「別宮」は 遷宮の年

緑の杜に槌音が響く。
お伊勢さんの「別宮」で
立柱祭、上棟祭、お白石持……、
式年遷宮の総仕上げが
いよいよ始まった！



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

すでに遷宮をすませた内宮の第一別宮「荒祭宮」で祈年祭。
天照大神の荒御魂をご祭神とする。 撮影/阪本博文

別宮で遷宮の祭つづく

今も、わたしたちの記憶に鮮やかなのは、昨秋行われた伊勢神宮・両正宮の遷宮祭である。初詣に新しいご正宮に手を合わせた方も多いことだろう。

だが、お伊勢さんの式年遷宮はまだ完了してはいない。

「正宮」の式年遷宮のはじまりは、およそ千三百年前、天武天皇の御代のこと。

「別宮」については、その五代あと、聖武天皇の御代(在位七二四～七四九)に、正宮に準じて式年遷宮を行うよう定められたと伝えられる。別宮とは、正宮と関わり深く格の高い神社のことをいう。

伊勢神宮は百二十五社(正宮・別宮・摂社・末社など)からなる神社だが、そのうち「別宮」は十四宮。これから長い期間をかけて、すべてのお社で遷宮が行われることになる。

すでに、昨秋、第一別宮である荒祭宮(内宮と多賀宮(外宮)の式年遷宮は正宮にひき続いて終えている。残る十二別宮の遷宮が今年から来年にかけて行われる予定だ。

今年一月には、早くも二つの別宮(月讀宮と月讀荒御魂宮)の立柱祭と上棟祭が行われた。これから社殿の造営は着々とすすめられ、四月からは毎月どこかの別宮で遷宮の祭が行われる。

「別宮」はご祭神のお働きも由緒もさまざまで、十四別宮めぐりの人気は高い。今年はとりわけ注目される存在となりそうだ。

●主な内容

- (特集) ことしは別宮・…遷宮の年
2・3面 荒祭宮・風日祈宮・月讀宮・倭姫宮
4・5面 伊稚宮・龍原宮
6・7面 多賀宮・土宮・風宮・月夜見宮
8面 いせびと歳時記

お伊勢さんの別宮は、内宮・外宮合わせて十四社。緑の杜にたたずむ神明造の外観は各宮ともそれぞれの風情があり、創建の年代、お働きもさまざま。ご祭神のお顔ぶれは多彩だ。

伊勢神宮「別宮」十四社の「遷宮、正宮に準じて、雅やかに厳かに」

「別宮」の遷宮祭も、陛下のお定めに従って――

別宮は「わけみや」とも呼ばれ、内宮に十社、外宮に四社が所属している。両正宮を支えるとりわけ重要な宮である。

年間の祭においても別宮は正宮に次いで重んじられ、三節祭などの神饌も正宮に次いで豊かにお供えされる。

別宮の所在は、内宮の神域に二社、外宮に三社、旧神領(伊勢市内)に六社、遙宮として志摩市に一社、大紀町に二社がある。全国でも、これほど多く別宮のある神社はほかにない。

式年遷宮に関しては、遷御の儀はもちろん、立柱・上棟など主要な祭は、正宮と同じく天皇陛下のお定めによって日程が決まる。造営も、正宮に次いで多くの祭を経て、丁寧にすすめられる。

一方、奉納される御装束神宝は別宮によってそれぞれの御料が定められており、当代随一の伝統工芸師によって新調されたものが、遷御の儀によって納められる。

十四別宮は、その創建の由来もさまざま。まず、皇大神宮と豊受大神宮のご祭神の荒御魂(註1)を祭る宮、倭姫命が定められた遙宮(註2)、さらに、朝廷より



宮号宣下された宮(註3)がある。

ちなみに、伊勢神宮に属する宮社は合わせて百二十五社ある。両正宮、十四別宮のほかに、摂社(四十三社)、末社(二十四社)、所管社(四十二社)がある。その社殿は、必要に応じて修繕あるいは遷宮造営が行われ、神々の住いにふさわしく保持されている。(註4)

(註1)荒御魂を祭神とする別宮は、荒祭宮、多賀宮、月讀荒御魂宮などがある。荒御魂とは、神の御魂の猛々しい、積極的な現れをいう。
(註2)遙宮とは、正宮から遠く離れている別宮のこと。伊雑宮、瀧原宮、瀧原並宮がある。
(註3)功勞などにより、朝廷より宮号を宣下された別宮。風日祈宮、土宮、風宮など。
(註4)摂社・末社・所管社の遷宮は、おおよそ20年で大修理、40年を目途に造替されるが、社殿の傷みに応じて、適宜、造替される。

新宮となった荒祭宮には若い世代の参拝者が目立つ。

内宮・別宮

皇大神宮正宮のお傍近く
第一別宮と風雨をつかさどる古社

荒祭宮

祭神 天照大御神荒御魂

ご正宮につづいて遷御の儀。積極的な御魂は若者たちを魅了する

皇大神宮(内宮)の第一別宮・荒祭宮は、正宮の左手後方、石階上の小高いところにあり、すでに清々しい新宮の姿である。

式年遷宮の「遷御の儀」は正宮と同じく平成二十五年十月十日、勅使を迎え、大宮司、少宮司、禰宜ほかの神職により、ほぼ正宮と同じ次第により厳かに行われた。御装束神宝は、金銅造御太刀を始

風日祈宮

祭神 級長津彦命
級長戸辺命

蒙古襲来の国難を救い、
宮号の宣下を受けて「別宮」に



荒祭宮の「遷御の儀」。正宮の8日後、松明の明かりの中で行われた。

内宮神域でも、とりわけ自然が美しく心安らぐのは、風日祈宮の辺りである。参道には島路川を渡る風日祈宮橋が架かり、夏にはカジカが鳴き、ホタルも飛び交う。

毎年五月十四日と八月四日の二度、この宮の名を冠した風日祈祭が行われ、風雨の順調と、五穀豊穡が祈られる。五月の祭には小さ

●別宮の遷宮スケジュール ※荒祭宮、多賀宮は平成25年完了。

	月讀宮 月讀荒御魂宮	伊佐奈岐宮 伊佐奈瀨宮	瀧原宮 瀧原並宮	伊雑宮	風日祈宮	倭姫宮	土宮	月夜見宮	風宮
立柱祭	平成26年 1/8	平成26年 3/15	平成26年 4/15	平成26年 5/25	平成26年 6/10	平成26年 6/1	平成26年 8/10	平成26年 8/20	平成26年 10/20
上棟祭	平成26年 1/8	平成26年 3/15	平成26年 4/15	平成26年 5/25	平成26年 6/10	平成26年 6/1	平成26年 8/10	平成26年 8/20	平成26年 10/20
櫓付祭	平成26年 2/1	平成26年 4/5	平成26年 5/5	平成26年 6/20	平成26年 7/10	平成26年 7/15	平成26年 9/15	平成26年 10/5	平成26年 11/20
お白石持	平成26年 9/28	平成26年 9/28	平成26年 秋予定	平成26年 11月予定	—	平成26年 11/30	—	平成27年 2/22	—
遷御	平成26年度中(秋～春)								



5月の風日祈祭。小さな糞と笠が供えられる。

な糞と笠が各宮社に供えられる。古くは風神社と呼ばれ、農作物に関わり深い守り神として丁寧に祭られてきた歴史がある。

蒙古襲来の文永・弘安の役(一二七四・一二八一)のこと、未曾有の国難に朝廷は伊勢へ勅使をつかわすなど、風神に一心に祈りを捧げた。すると、風神社から猛風が巻き上がり、襲来した戦船から国の危機を救ったという。その功により別宮に昇格された宮だ。「遷御の儀」は伊雑宮に引き続いて行われる予定である。

■内宮までの交通
近鉄宇治山田駅または近鉄・JR伊勢市駅からバスで20分「内宮前」下車/伊勢自動車道・伊勢ICまたは伊勢西ICから車で5分



伊勢
名物

福

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) ファクシマール 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>

内宮・別宮

伊勢の緑多い文教地区に、
由緒ある別宮四棟が横一列に

月讀宮

月讀宮 祭神 月讀尊
月讀荒御魂宮 祭神 月讀尊荒御魂
伊佐奈岐宮 祭神 伊弉諾尊
伊佐奈弥宮 祭神 伊弉冉尊

内宮より歩いて二十分余り、伊勢市中村町にこんもりと大楠の繁る別宮の杜がある。

参道を進むと、東西に横一列、四棟の別宮社殿が並ぶ壮大な情景が待ち受けている。

「つきよみさん」と総称されることの多い四社だが、社殿それぞれに神話でもなじみ深い祭神を祭る

古社である。左手から、天照大神の弟君の月讀尊荒御魂、月讀尊、次に天照大神と月讀尊の父君・母君である伊弉諾尊、伊弉冉尊が祭られている。

ふと、どの順番で参りしたのか、と戸惑う。在勤の神職の谷分道長さん(65)は、「月讀宮↓月讀荒御魂宮↓伊佐奈岐宮↓伊佐奈弥宮が順当とされますが、お心の向くままに」と鷹揚だ。

神宮の五大祭(祈年祭・三節祭・新嘗祭)では、二組の神職が分かれて二宮ずつ同時進行で祭典が行われる。

今年一月八日、十二別宮のトップ



別宮「つきよみさん」は外宮にもあるが、月夜見宮と記す。四宮がそろった内宮の「つきよみさん」は、別宮の中で最も参拝者の多い宮である。(平成5年 前回遷宮時)

倭姫宮

祭神 倭姫命

伊勢市民の熱い請願で大正期に創建。御杖代となった皇女を祀る

内宮と外宮の中ほど、倭姫宮は倉田山丘陵の一角にある常緑の杜に鎮座する別宮である。ここは大学や美術館・博物館が集中する伊勢の文教地区であり、実は、すぐ近くに倭姫のものと思われる陵墓(尾上陵)もある。「倭姫宮は伊勢の一等地に、との市民の熱い思いの込められた宮地ですよ」と在勤の神職の喜田川宗之さん(51)はいう。

祭神・倭姫命は、第十一代垂仁天皇の皇女で、天照大神の御杖代(註)となつて新しい鎮座の地を求めて旅を重ね、大和からはるばる伊勢へこられた方だ。神宮の鎮座とその祭に大いなる業績を遺した姫君なのである。

それにも関わらずお祭する宮社のないままに近代を迎え、大正初期となって神宮と市民の総意を受けて時の市長が請願。帝国議會で承認されて、大正十二年十一月五日にご鎮座の儀が行われた。

その後、倭姫宮御杖代奉賛会が組織され、ご鎮座の日も記念して、五月五日に春の例大祭、十一月五日に秋の例大祭が催される。



月讀宮の上棟祭(平成26年1月8日)。



静けさに包まれる月讀宮の参道。

プをきつて月讀宮と月讀荒御魂宮の立柱祭と上棟祭が行われた。この秋のお白石の奉納は四郷地区の神領民によって行われる。去る二月十一日、伊勢商工会議所において

て結団式が執り行われた。なお先例では、「遷御の儀」は十月に行われた。

■月讀宮までの交通
近鉄五十鈴川駅から徒歩10分/伊勢自動車道・伊勢ICから車で3分



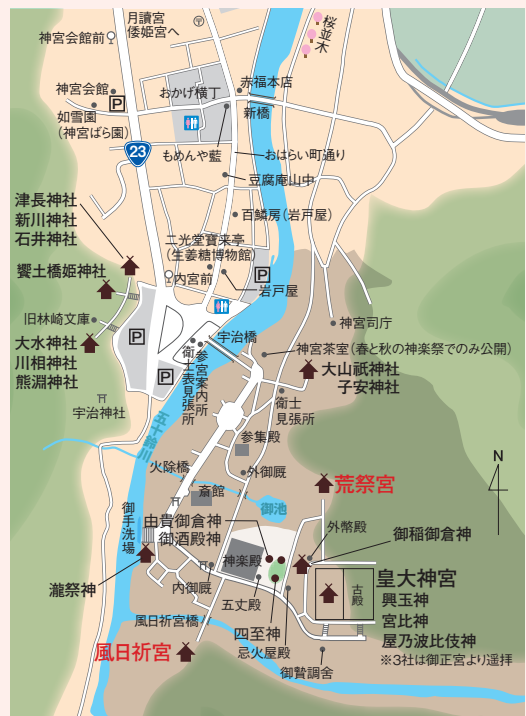
■倭姫宮までの交通
JR・近鉄伊勢市駅または近鉄宇治山田駅からバスで10分「徴古館前」下車
伊勢自動車道・伊勢ICから車で5分



倭姫宮奉賛会長・山中隆雄さん。



市民の熱意によって創建された倭姫宮。(上) 毎月5日には月次祭が行われている。(写真右下)



CD購入は、近鉄宇治山田駅前の割烹「大喜」、伊勢市河崎の「角仙合同」またはインターネットのamazon.comで。 国ジャパニオン 03・3746・4422

「倭姫命」賛歌がCDに
〜朝日の来向かう国
夕日の来向かう国(中略)
一輪の花 希望の花
共に咲かせようあの土地(略)
伊勢の音楽家・廣めぐみさんの潤いある豊かな歌声に幻想的なシンセと津軽三味線の伴奏で「倭姫命」を讀める歌がCDとなっている。
「大神とともに旅路を重ねた倭姫の思いを込めて歌いました」と廣さん。作曲をした黒澤博幸氏(天地位)と、毎年この曲を奉納演奏している。代金1050円。



奉祝

第62回 神宮式年遷宮

東京の
お伊勢さま

東京大神宮

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-4-1 電話 (03) 3262-3566 FAX (03) 3261-4147 http://www.tokyodaijingu.or.jp/



内宮・別宮

伊勢から山越えして志摩の海辺へ
「遙宮」は古くからの御贄の地に

米どころであり、海の幸にも恵まれる志摩の磯部。倭姫命が創建された別宮には、「磯部の御神田」(国の重要無形民俗文化財)や海の幸に感謝する郷土色豊かな大祭が伝わる。

伊雑宮

祭神 皇大神御魂

別宮の御料田で
日本三大御田植祭「御神田」

「いぞうぐうさん」と親しみを込めて呼ばれる伊雑宮は、伊勢神宮が鎮座したのち、倭姫命が御贄地(大神への供え物を採るところ)を求めて志摩をめぐっておられる途上で創建したと伝えられる。

かつて、伊雑宮へ向かう神職たちは内宮の裏手から島路川沿いに山道を上り、逢坂峠に出て、海辺

まで下った。大祭の幣帛を携えて遙宮へ出向くのはかなりの難行苦行だったに違いない。今では、伊勢道路(または、第二伊勢道路)を車で三十分ほど走れば、宮の駐車場に着く。

伊雑宮は遙宮だけに伊勢の別宮にはない施設も色々ある。大祭に欠かせない神饌をこの宮域で調理する

ので屋根に煙出しのある忌火屋敷、釣瓶で汲む御井戸、御倉、祓所、それに参籠のために宿衛屋も備わっている。在勤の神職の土田見久さん(39)と越智基安さん(34)が、毎朝五時に参拝者がお参りできるように入口のしめ縄を外し、御垣内や神域を巡視し、参拝者に神札や御守の授与を行っている。

伊雑宮は神田をもつ唯一の別宮である。毎年六月二十四日に行われる御神田は大阪の住吉大社、千



「御神田」(6月24日)で田植えする早乙女たち。



伊雑ノ浦に近く、こんもりと繁る伊雑宮の杜。



「お白石持行事」は地域の絆で盛り上がる。



遙宮の伊雑宮は、昔から地元の崇敬があつい。



志摩市が誕生して
初の「お白石持行事」

仕切る。当日は、正殿参拝、神職による早苗の授与に始まり、下帯姿の男たちが泥んこになって巨大なゴンバウチワ(大団扇)を飾った青竹を取り合う「竹取り神事」、男児が奏する太鼓、さら、謡にあわせて早乙女たちが田植えする「御田植の神事」、再び列をなして伊雑宮へ踊りながらもどる「躍り込み」など、終日かけてのどかな時代絵巻が繰り広げられる。

今年五月、伊雑宮は式年遷宮の立柱祭・上棟祭を迎える。

今回は、五町合併によって志摩市が誕生して十年目、初めて迎える遷宮の祭である。市民の楽しみ

な出番は新宮の御敷地にお白石を供える「お白石持行事」だ。

奉賛会長は志摩市長・大口秀和さん(62)。副会長は磯部町上之郷に住む南幸生さん(67)だ。奉献



伊雑宮奉賛会副会長の南幸生さん。

団本部は志摩市商工会に置かれる。南さんは「まずは、結団式」。

次に「お白石拾い」はバスを仕立てて宮川上流へ。お白石を積み奉

献車は二台、曳くコースは、近鉄・志摩磯部駅前の木場公園をスタート地点として伊雑宮まで約一・五キロです。今回は志摩一円から参加が予想されるので、綱をうんと長くしなくてはと構想を語る。

御神田をはじめとし、海の幸を供える調献式、海女たちが集う御祭、と祭で結ばれた地域の絆は固い。二十一年に一度にふさわしいお白石奉献が行われることだろう。

ちよつと立ち寄って

元御師の家

伊雑宮の門前に、御師・森新太夫の子孫、森和夫さんの家があり、資料を展示し、立ち寄る旅人に伊雑宮の今昔を話してくれる。



開8時～17時30分
休無休
〒志摩市磯部町上之郷407
☎0599・55・0740

志摩市
歴史民俗資料館

志摩市の宝ともいえる磯部の御神田、安楽の人形芝居(いづれも国指定重要無形民俗文化財)の展示や資料文献などを公開している。



開 9時30分～18時(入館は17時30分)
休月曜・毎月最終木曜
常設展は無料。特別展は一般500円、大学生・高校生250円。
〒志摩市磯部町迫間878-9
☎0599・55・2881

みえ旅パスポートでLet's みえ旅

三重県観光キャンペーン(平成28年3月まで)期間中、みえ旅案内所でみえ旅パスポートを発給します。三重の旅がもっと楽しく、もっとお得になるパスポートです。

- 1 「みえ旅おもてなし施設」で使えるクーポン特典
- 2 県内各地を楽しく巡るスタンプラリー
- 3 ステージアップすること、プレゼントがグレードアップ!!

詳しくは 三重県観光キャンペーン

検索



「とっておきの」「地元でしか味わえない」...
そんな三重県ならではのオプションツアーサイト



三重旅をさらに充実させるなら ビジット三重県 検索 (株)観光販売システムズ ☎052(589)0200

頭の深(神)呼吸に
来ませんか



頭の守護神 知恵の大神

頭之宮四方神社

0598-72-2316

http://www.koubenomiya.or.jp/

- 「松阪」よりJR総又は三重交通(南紀特急)「大内山駅」下車徒歩10分
- 「松阪」より伊勢自動車道「松阪大内山IC」より尾鷲方面へ車で5分
- 「松阪」より伊勢自動車道「松阪大内山IC」より尾鷲方面へ車で5分
- 「松阪」より伊勢自動車道「松阪大内山IC」より尾鷲方面へ車で5分

内宮・別宮

古代の杜を思わせる杉木立の奥に
由緒正しい「遙宮」

その昔、皇女・倭姫命が天照大神ご鎮座の地を求めて全国を旅する道程で、各地に仮のお宮を多く残された。その地を「元伊勢」と呼ぶ。皇大神宮から南西へ約三百五十キロ、元伊勢の中で唯一別宮となつたのが瀧原宮・瀧原竝宮だ。

瀧原宮

瀧原宮 祭神 皇大神御魂
瀧原竝宮 祭神 皇大神御魂

なぜ、こんな山奥に内宮の別宮が――？ 宮川支流・大内山川が緑ふかい溪谷を流れる度会郡大紀町の山間、十四別宮の中でもっとも遠く鎮まるのが瀧原宮、瀧原竝宮の二社だ。
創建はこの地が天照大神の仮の



参道には樹齢300年をゆうに超える杉が力強くそびえる。



滝原区長会長の北川進さん(右)と副会長の村島理允さん(左)。真新しい奉曳車とともに白石持行事に臨む。



20年前に行われた瀧原宮のお白石持。(撮影／森崎建夫さん)

川清流で手水を行う御手洗場がある。こうした域内の地勢は内宮と非常によく似ており、そのひな型ともいわれている。
ふたたび参道を歩き、うつそうとした木立がぱつとひらけると、瑞垣と玉垣のめぐる瀧原宮、瀧原竝宮の前に出る。二社の関係については諸説あるが、内宮の正宮と荒祭宮に天照大神の和御魂と荒御魂が祀られていることから、その古い形を伝えるものというのが通

説だ。宮域内の案内看板によれば、まず瀧原宮、次に瀧原竝宮の順に参拝するとある。
東の一段高い敷地には長由介神社(瀧原宮所管社)、若宮神社(瀧原宮所管社)がそれぞれ建つ。若

旅人たちから篤く信仰されてきた瀧原宮。戦乱の世、二十年ごとの遷宮がままならない状況下では土地の人々が献身的に支えたという。「大紀町ふるさと案内人の会」の小倉康正さん(70)は、「地元では瀧原宮のことを地名をとって、のじりさん」と呼びます。このお社は自分たちが守ってきたという誇りがあるのだと思います」と語る。
今年秋に遷宮を控えて、地元ではお白石持行事の準備も進む。ニュースは、奉曳車二台を新造したことだ。「五年かけて寄付を募り実現しました。車体には地元産の檜材を使っています」と滝原地区区長会長の北川進さん(63)。まだ木の香漂う奉曳車に、元伊勢の住民たちの心意気があふれる。



瀧原宮(手前)、瀧原竝宮の2社が並んで建つ。(平成6年 前回遷宮時)



宮域を沿々と流れる頓登川。

大内山川をさらに遡って行くと、日本で唯一の頭の宮として有名な頭之宮四方神社がある。境内にはいくつもの顔をもつ「頭之石」や、飲んでご神徳があるといわれる湧き水など、パワースポットも多い。
「当宮は頭の神様ということで古くから地域の皆さまにご信仰いただいてきました。最近では、学業のみならず事業アイデアの成就や対人関係のお悩みまで、さまざまに思いでみなさん遠くからお参りにお越しいただいています」と九代目宮司。

頭之宮四方神社
(大紀町)

すこし
足をのびして
「頭」の神様を
詣でる



これから春にかけては、受験のお礼参りや、新入学のランドセルや鞆のお祓いに訪れる人たちが賑わうという。

交通
JR紀勢本線・大内山駅から徒歩約10分／紀勢自動車道・紀勢大内山ICから尾鷲市方面へ車で約5分
0596-722316

おかげ座 神話の館

遠い昔、そのまた昔から語り継がれてきた、日本の神話。「おかげ座 神話の館」は、天照大神が祀られる伊勢の里の、これまでになかった本格的な神話体験館です。

伊勢内宮前 おかげ横丁

総合案内 電話 0596(23)8838
〒516-8558 三重県伊勢市宇治中之切町52
http://www.okageyokocho.co.jp/

奉祝 第62回神宮式年遷宮

伊勢おはらい町 豆腐庵 山中

伊勢市宇治中之切町95番地
電話 0596-23-5558 定休日/木曜

美しい五十鈴川の水を生かした豆腐を作りたい

「和妙」にぎたえ 水の良さを最大限ひきだせるよう作りあげた豆腐です。

うの花どーなつ 90円

あんどーなつ 130円

おとろふソフト 「和妙」を50%以上含んだとろふのソフトクリームです。

うの花どーなつ 豆乳とおからを練り込んだヘルシードーナツです。

正宮から御池を隔てて 土・風・水の神々つどい聖域へ

外宮・別宮

外宮には四別宮があるが、神域内にある三別宮はすべて正宮前に見える御池の対岸に鎮まる。豊受大神の荒御魂を祀る多賀宮、農耕に関わりの深い土宮と風宮――。水辺の清々しい緑に包まれて、ひととき清らかな空間が広がっている。

多賀宮

祭神 豊受大神 荒御魂

九十八の石段を上った高台に 荒御魂まつる第一別宮

御池に架かる一枚石の橋（通称「亀石」）を越えて杜を奥へと進むと、外宮第一別宮・多賀宮に続く

石階が見えてくる。第二十一代雄略天皇の御代、丹波の国から豊受大神をこの地にお迎えした時に、その荒御魂を本宮の南の丘の上に祀ったと伝わる。

「高宮」たる所以を感じつつ、九十八段の自然石の階段を上り切ると、昨年（平成二十五年十月）遷宮が行われたばかりの神明造の社殿が目に入る。二重の垣の内、ご正殿をより近くに拝めるのも別宮の魅力の一つだろう。

豊受大神の活発な荒御魂のお力をいただけると、昔から地元では「あらたかさん」と呼び親しまれ、事を起こそうとする人たちに多く参拝されるお宮だ。

土宮

祭神 大土乃御祖神

度重なる宮川氾濫を治めた山田原の守り神

多賀宮の参拝を終えて石段を下ると、正面に土宮。右手に風宮の二別宮が同時に見える。南向きに建つ社が多い中、土宮



第一鳥居をくぐって神域へ。



上／東向きに建つ、土宮。
右／風雨の守り神を祀る、風宮。



下／多賀宮の「遷御の儀」。平成25年10月、両宮、荒祭宮に続いて行われた。

風宮

祭神 級長津彦命・級長戸辺命

「神風」の功で別宮に昇格
風雨の順調を守る

多賀宮の東側には風宮が鎮座する。土宮同様、神域内にあって鳥居を持つお社だ。級長津彦命、級長戸辺命が同座する。

二神は『日本書紀』によると、朝霧を吹き払った伊弉諾尊の息吹から生まれたとされ、農作物の成長を促す風雨の守り神として全国の人々の信仰を集めてきた。古くは風社という末社だったが、文永十一年（一二七四）と弘安四年（一二八二）の元寇の際、神風を起こして国家の危機を救ったとして、正応六年（一二九三）、内宮の風日祈宮とともに別宮に昇格している。

土宮、風宮ともに平成二十六年度中に遷宮が行われる予定で、土宮は今年八月、風宮は十月にそれぞれ立柱祭、上棟祭が斎行される予定だ。

■外宮までの交通
JR・近鉄伊勢市駅から徒歩10分
伊勢自動車道・伊勢西ICから車で5分

外宮域内の 摂末・末社・ 所管社めぐり

外宮の杜の内には正宮、三別宮の他に、摂社、末社、所管社など多くの神々が祀られている。別宮めぐりの足で、脇参道の先に付む諸社にも詣でたい。

土宮に向かって左手を杜へと入り、谷間のやや小高いところまで上ると、板垣に囲まれた下御井神社（外宮所管社）が見えてくる。

日々神様にお供えする水を汲む井戸の神が祀られており、神域西側にある上御井神社（外宮所管社）の予備の井戸とされる。

正宮参拝の帰り道には、北御門参道から御殿の先を西へ折れて杜の奥へ。度会国御神社（外宮摂社、大津神社（外宮末社）と巡拝しよう。正宮とはうって変わった静寂の中、小さなお社と間近に対峙できるのが醍醐味だ。さらに先には上御井神社があるが、立ち入れないため遙拝となる。



度会国御神社

祝 第62回神宮式年遷宮
食の神さま外宮さまの見守る前で
日々精進を重ねて参ります。



一階 店舗 午前九時～午後七時
二階 茶房「あそらの茶屋」 軽和食・喫茶「御膳の朝かゆ」（朝のみ）
ギャラリー 午前七時半～午後五時 年中無休



- ◆本社 伊勢市上地町2691-13
電話0596・23・1281(代)
0120-00-0707
- ◆本店(外宮前) 伊勢市本町13-7
電話0596・23・3141(代)
- ◆参宮楽膳 伊勢市上地町2691-51
伊勢問屋センター前
電話0596・20・3958(代)
- ◆内宮前店 伊勢市宇治中之切町87
電話0596・28・0081

E-mail info@sekiya.com
http://www.sekiya.com

http://www.iwatoya.co.jp

金時生姜を使った
岩戸屋の生姜糖
鮮やかな赤色をした金時生姜は、
香りと辛味が大変強い分、美肌効
果や花粉症を抑える効果がある
といわれています。



祝 第62回神宮式年遷宮
お多福とともに
岩戸屋は今も昔も内宮前



伊勢・内宮前おはらい町
岩戸屋
TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE
JUAN 珠庵
TEL 0596-23-6750

伊勢の土産&ギャラリー
ひぐりばう
百福
TEL 0596-23-3236

外宮・別宮

高河原の川の神が起源
街中に鎮まる外宮の「ツキヨミさん」

外宮からほど近く、伊勢の中心街に鎮座する月夜見宮は、古くは高河原とよばれた稲作とつながりの深いお社だった。常緑樹が生い茂る自然豊かな杜はさながら街のオアシスの雰囲気。宮域に一步入れば、悠久の時の流れに身を置くことができる。

外宮別宮で唯一
地元神領氏がお白石を奉献

平成二十七年春とされる月夜見宮の遷宮に向けて、地元の機運も高まっている。毎月十九日の月次祭などを奉斎する月夜見宮奉賛会会長の橋本國久さん(79)は「ツキヨミさんには子どもの頃から氏神さんのように参っていました。昨年外宮さんの遷宮を奉拝させていただきましたが、それよりずっと小規模ながら、二十年前のツキヨミさんの遷宮のようすを懐かしく思い出しました」と語る。

月夜見宮

祭神 月夜見尊・月夜見尊荒御魂

外宮の北御門に立つと、小路のかなたに鳥居と常緑の杜が見える。街中にある外宮別宮・月夜見宮だ。内宮別宮の月讀宮と同じく天照大神の弟神・ツキヨミノミコトとその荒御魂が祀られる。読みが同じことから伊勢の人々は、内宮を「ゲツドクさん」、外宮を「ツキヨミさん」と呼び分けることもある。

平安時代初期には外宮摂社の筆頭に挙げられて二十年ごとの式年遷宮も行われており、すでに別宮に準じる格式だった。その後承元四年(一一二〇)、土宮の例にならい別宮に昇格したといわれる。古くは月讀宮と同様、荒御魂は別社殿に祀られていたというが、現在は一社に同座する。

宮域の外堀に架かる小さな石橋を渡り一の鳥居をくぐると、一瞬にして街中とは思えぬ静寂に包まれる。参道から正殿まではほどなく。社殿前に佇み空を見上げれば、樹齢三百年余のみごとな大楠が枝を張る。そのまま神明造の社殿の



月夜見宮の社殿。「高河原」と呼ばれた地名の通り、傾斜地に建っている。



外宮から歩いて訪れる参拝者も多い。

両宮をむすぶ「神路通り」

夜は通るべからず
「神の行き交う古道」を歩く

月夜見宮と外宮のご正宮とは直線にして約四百メートル。外宮神域内の北御門参道から、街中を抜ける小路をゆくルートが両宮を結ぶ。宮柱立てそめしより 月よみの神の行き交う中の古道

古歌にも詠まれるこの小路沿いの家々の塀には、「ここは神路通」の手作り看板が掛かる。天照大神の弟神・ツキヨミノミコトが夜ごと、白馬に乗って豊受大神のもとへと通われるというロマンチックな伝説から、地元の人々の間でこう呼ばれているのだ。



神路通りを月夜見宮へ向かう。



通り沿いに残る古い館は、「古今伝授」の祖といわれる東常緑邸跡だ(上)。神路通り入口に立つ道標(右)。

外宮前の観光案内所で「お伊勢さん観光ガイドの会」のボランティアガイドを務める阿形智恵子さん(72)によると「昔から伊勢の年配の人たちは『神さんが通るで』

と言つて夜はこの道を歩きます。昼間でも道の真ん中は避けて両端を通行するんです」とのこと。外宮から月夜見宮へ、神の気配を感じながら歩いてみてはいかがか。

■月夜見宮までの交通
近鉄・JR伊勢市駅から徒歩5分
伊勢自動車道・伊勢西ICから車で5分

幻?の「白馬伝説」ストラップ

地元には伝わる白馬伝説を訪れた人にも知ってもらおうと、厚生地区まちづくりの会・観光交流委員会では「つきよみさんに参ろうストラップ」を製作・販売している。

携帯ストラップのデザインは月夜見尊(在庫なし)と白馬伝説の二種類で、いずれも日本神話を彷彿させる雅やかなイラストを象っている。「ロコミで広まりひそかに人気なんです。神路通りを歩かれる方も増えました」と伊勢旅館組合事務局の篠崎組合長。販売場所や数量が限られているため、手に入ればラッキーな幻(?)の伊勢土産だ。



写真は「白馬伝説」。600円。神路通りの伊勢旅館組合事務局ほか伊勢市内関係施設にて販売。
0596635230
(火・水・金曜日9時~15時)

1~4面 文・乾淳子
5~7面 文・新井千尋

想像力で創る未来へ

dream navigator!



伝える喜び、これからも
新日本工業株式会社
http://www.shin-nihon.co.jp

本社／三重県松阪市広陽町41-1 TEL 0598-20-2880(代)
事業所／東京・大阪・福岡・三重・名古屋



伊勢内宮前
ニエダ
TEL 0596-224175
FAX 0596-242510



http://www.nikodo.co.jp/

祝第62回神宮式年遷宮



外宮さんと内宮さん、二つのお宮が
永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より
「二光堂」と名づけました。

